

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

活発な梅雨前線の影響で、静岡県熱海市は大規模な土石流被害。大北地域でも激しい降雨に遭う機会が増えている。走行中にみま

われる激しい降雨で視界が突然遮られた体験をした人も多いはずだ。全国からは数日間の降雨量が、平年の1カ月分の降水量との報道。平年も梅雨の時期の降水量は少なくないはずだ。これも温暖化現象の一因なのかと心が曇る。

新潟日報のコラム日報抄さんが小杉明夫さんの句「驚沢な時間賜る梅雨ごもり」を紹介して、「梅雨ごもり」の言葉、雨が降ったり、やんだりで畑仕事もはかどらない。そんな日はお気に入りの本を引っ張り出し「晴耕雨読」を決め込むのもい

い。テレビを消し屋根を打つ雨音に耳をすますのも「驚沢な時間」だと。心休まらない日常だからこそ、時間の過ごし方を提案した。気象エッセイストの倉島厚さんは、枕草子の一節「にくきもの。急ぐあるをりに来て、長言する客人」を紹介。怒雨と歓

迎されても、長引けば喜ばれないとして、7月の雨を客人になぞらされた。毎日続く梅雨前線の話題。「冷夏は経済を冷やす」とも言われている。水稲をはじめ日照不足が気になるし、

夏場の観光の客足に影響がなければと思ってしまふ。オリ・パラの開幕まであとわずかだ。世界から注目される日本から災害報道が発信されないよう祈るばかりだ。

く使われる言葉。改めて意味を考えても一度も見たことがないとクラフト・エウイング商会の「ないもの、ありません」が紹介している。「口車」「地獄耳」「左うちわ」「堪忍袋の緒」。何気なく使っ

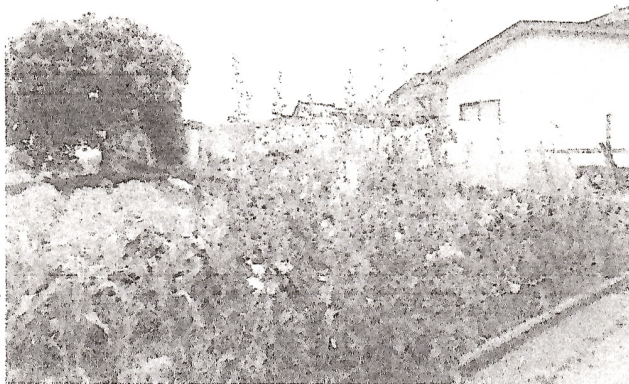
「多元的無知」と評価されてはいけない

ているが本当の意味を思わず考えてしまふ。特に「どきどき」は、人間そっくりで丈が高く密生する草。紛らわしいことがあったとき、紛れて逃げ出せる、その内容に思わずほほ笑でしまふ。

社会心理学に「多元的無知」という用語がある。自分一人がほかの人と考えが違うのではと不安になり、周囲に同調してしまう意味だ。誰もが知る童話アンデルセンの「裸の王様」。仕立屋から愚か者やバカに見えない不思議な衣装が織れますとの勧め

で注文。家来は「裸」だと思いが黙っていたが、小さい子供が「王様は裸だよ」と叫んだ話だ。まさにオリ・パラの入場者数の報道も

同じように見えてしまふ。「多元的無知」と評価されないよう、祈るばかりだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



頭頂部まで花が咲くころには梅雨が明けるといいう「夕アオイ」。梅雨明けはしばらく先ののだろうか